

# わがまち紹介

## 北茨城市

「天心が想い、大観が描き、雨情が詠んだ」  
感動のふるさと 北茨城

北茨城市長  
豊田 稔 氏



株式会社筑波銀行  
磯原支店長  
木下 勝弘

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。  
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。  
今回は茨城県北茨城市です。筑波銀行磯原支店長 木下 勝弘が北茨城市長 豊田 稔氏にお話を伺いました。

### 誰もが住みたいまちを目指して

2023年6月から7期目の市政運営がスタートしました。

これまでの4年間は、新型コロナウイルス対策は言うまでもありませんが、炊き出し機能と防災センターの機能を併せ持つ「複合防災・学校給食センター」の建設や自然環境に配慮した「高北清掃センター」の建設、さらには、磯原中学校と華川中学校の統合による新校舎の建設や小中学校の普通教室へのエアコンの設置、学校給食の完全無償化など、「活力そして魅力ある北茨城」の礎を着実に築いてきました。

これからの4年間は、人口減少や少子高齢化による地域の衰退など、本市にとっても重大な問題の解決に向け、安全・安心なまちづくりを第一としながら、これまで以上に誰もが健康で活躍でき、雇用があり、子育てのしやすい環境の整備などに取り組んでいきます。

### 進むデータセンターの誘致

これからの重要な施策の一つは、新たな成長産業として経済的な効果も期待されるデータセンターの誘致です。国がデータセンターの地方分散化を目指すなか、本市は2022年8月に経済産業省から全国10自治体の一つとして「データセンター事業実施可能性調査事業」の採択を受け、旧雨情の里スポーツ広場の跡地を候補地として立地環境等の調査を進めてきました。当該地は、電力、通信網などデータセンターの立地に十分なポテンシャルを有しているとの調査結果を得られたことから、現在具体的な誘致活動を行っているところです。企業誘致についてはこれまで、居住地における就業を最重要課題と位置づけ、企業誘致奨励金、企業雇用者奨励



北茨城市長 豊田 稔 氏

金、工業用水の3年間無料化といった優遇制度などにより、市内の工業団地内に88社の進出が実現し、工業団地全区画への企業立地が完了しています。

## 伝統をつなぐ「芸術のまちづくり」

私は北茨城を訪れたお客様を案内するとき、本市を「『天心が想い、大観が描き、雨情が詠んだ』感動のふるさと北茨城」と紹介しています。北茨城は、かつて岡倉天心や横山大観、野口雨情など多くの芸術家や文化人が思索に耽り、日本を代表する芸術作品を世に送り出した芸術と文化の薫り高い土地柄です。本市では、こうした伝統や風土を活かした「芸術によるまちづくり」を展開しています。例えば、芸術を活かした地域おこし協力隊として活動して下さったアーティストの方が市内に定住し、「期待場（きたいば）」「ARIGATEE（ありがてえ）」などを拠点に、地域住民とともにアート活動やイベントなどを開催し、地域の活性化が図られています。



2023年10月に開催されたアートイベント「桃源郷秋祭2023」

## 本市の特徴を活かした観光の振興

### 再開されるイベントを弾みに

新型コロナウイルスが5類に移行し、感染症対策の緩和や全国旅行支援等の実施により、徐々に観光地に活気が戻りつつあります。2023年2月には3年ぶりに「全国あんこうサミット」を開催し、2024年5月には5年に一度開催される国指定重要無形民俗文化財「常陸大津の御船祭」が開催される予定です。

この歩みを止めることなく、引き続き観光需要の回復を図るため、新たな観光資源の核となる富士ヶ丘地区のキャンプ場整備を進めています。

もう一つ、新たな観光資源として期待しているのが、「十石堀」という農業用水路です。歴史的・技術的・社会的に価値のある施設として、2019年9月に茨城県内で初めて世界かんがい施設遺産に登録されました。

## 「子育て一番 北茨城」を目指して

少子化対策をしようとするれば、子どもを産み育てる環境づくりがどうしても必要になってきます。私は、北茨城市の子育て環境は日本一だという自信を持っています。



株式会社筑波銀行  
磯原支店長 木下 勝弘

本市はこれまでも国に先駆け、出産時の子育て応援商品券や出産祝金の贈呈をはじめ、第2子以降の保育料無償化、18歳までの医療費無償化、中学校の学校給食無償化などを行い、子育て家庭を支援してきました。

2023年度からはさらなる子育て環境の充実を図るため、小学校の学校給食の無償化を実施しています。また、食物アレルギーにより弁当を持参する世帯への補助も開始しました。

給食の無償化を実現するには歳出をやりくりすることはもちろん必要ですが、一番大事なことは実行しようとするトップの強い意志だと思っています。

さらには、旧磯原中学校跡地の一部を利用して、若い世代の子育ての希望をかなえるとともに、移住・定住を促進することを目的とした第2期の子育て支援住宅を整備いたします。

建物は2024年末頃には完成し、新年度が始まる前の2025年3月までには入居を開始できる予定です。

また、残りの区画については市が公園の整備を行うとともに、民間事業者が大型分譲地として販売予定です。



学校給食の無償化

## すべてのライフステージで健康に

人は何をおいても健康が一番大切です。高齢化が進むなか、市民の健康づくりを進めるために、医療機関との連携により健診時に医師の診断が必要とされた方への受診勧奨に取り組むことで、生活習慣病

の重症化等を予防していきます。

また、すべてのライフステージに対応した総合相談を行う元気ステーションなどを拠点に、医療・介護・予防等の支援を包括的に提供していきます。

市民病院については、その責務を果たすべく、医療従事者の確保を図るとともに、訪問看護ステーションや家庭医療センター等の充実を図ることで、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域医療提供体制を実現したいと考えています。

高まる市民の健康増進や体力づくりの機運に対しては、2022年度に新たに整備したグラウンドゴルフやスケートボードが楽しめる「華川スポーツパーク」や「ウォーキングロード」などの利用促進を図っていきます。

## 地域産業の活性化に向けて

### ふるさと納税による商業の振興

商業については、本市へのふるさと納税寄附額の増加を図るため、返礼品とする特産品の種類を大幅に増やすことに力を入れています。本市の魅力ある特産品を増やしていくため、商品を開発・製造する事業者への支援、事業者の育成や商品メニューの開発、付加価値を高める工夫などに、商工会と協力して取り組んでいます。

### 農林水産業の推進

北茨城市は、農業、林業、水産業の第一次産業がそろった縮図のような場所です。第一次産業は人間が生きていくうえでなくてはならないものから、その振興には力を入れています。

農業については、ホールクroppサイレージ(WCS)用稲等に対し、市独自の補助を継続することで、農業経営所得の減少を抑制するとともに、遊休農地を解消していきたいと思えます。また、将来の担い手農家を確保するため、農作業の省力化や軽労化に加え、華川町下相田地区における県営ほ場整備事業等を通じ、農地を集積・集約化していきます。

林業については、間伐等の施業の集約化を推進するとともに、森林環境譲与税を活用した林業の活性化などに取り組んでいます。水産業については、水産庁の「浜の活力再生プラン」による漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指すことやストックマネジメント事業等による漁港の機能強化を進めます。

## 都市基盤の整備で安心・便利なまちへ

本市の将来のまちづくりを構想するとき、私が最重要課題と位置付けるのが、「国道6号関本・勿来バ

イパス」と「二市連絡幹線道路」の開通です。両路線の開通は、災害時の避難路としての機能や交通利便性の向上はもちろん、人流や経済の活性化、さらに医療、救急、防災等の面で広域的な連携が期待されるなど、地域社会構築の基盤になるものと確信しています。

加えて、市内の重要な幹線道路についても、通学路や災害時の輸送路となる「駅西停車場・豊田線」の早期完成を目指して整備を推進していきます。また、歩道整備や冠水対策といった地域の要望事項などへの丁寧かつ迅速な対応や、通学路等における危険ブロック塀などの撤去に対する新たな補助事業を開始するなど、更なる安全・安心なまちの実現に向けて取り組んでいきます。



高北清掃センター



家庭医療センター



コミュニティケア総合センター 元気ステーション

## 筑波銀行に期待すること

筑波銀行は本市の指定金融機関としての長年のお付き合いはもちろん、「北茨城市の復興支援にかかる四者による包括的提携協定」によるノルディックウォーキングの共催や地域イベントへの参加・協力などにより、長年地域の活性化を支えてきています。これからも互いの得意分野を生かし協調していきたいと考えていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。(取材日:2023年10月30日)

# わがまちの祭り・イベント

北茨城市

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

海と山の自然に恵まれ、四季折々の花や紅葉を楽しめるのも北茨城市の魅力。市内では年間を通して伝統行事や旬の味覚、芸術・文化を満喫する祭りやイベントが盛りだくさん。本コラムでは、そのなかから3つのイベントをご紹介します。



## ▶ 全国あんこうサミット

1月28日(日)

北茨城市特産のあんこうのおいしさを多くの人に知ってもらいたいと、北茨城市観光協会会員などが発起人となり、2014年に始まった食の祭典「全国あんこうサミット」。あんこうを使った全国のさまざまな料理が楽しめるイベントとして定着しています。

2023年2月12日には、3年ぶりとなる第7回サミットが漁業歴史資料館「よう・そろー」敷地内で開催されました。会場には市内をはじめ山口県や石川県、福島県など全国各地から43の団体が出店。約45,000人の来場者は、あんこう鍋やから揚げなど、さまざまなあんこう料理に舌鼓を打ちました。

ステージでは「あんこうの吊し切り」の実演のほか、アーティストによる音楽ライブや東京藝術大学生による神輿パフォーマンスなども行われ、会場を盛り上げました。

## ▶ 北茨城市民夏まつり

8月中～下旬

北茨城市民が毎年心待ちにしている夏の恒例行事です。2023年8月20日には、4年ぶりとなる第13回のまつりが、「みんなで作くり・みんなでおどる・みんなのまつり」をテーマに、JR磯原駅周辺の駅西通りや駅東ふれあい公園などを会場に行われました。メインステージでは、歌手のライブやスパリゾートハワイアンズダンシングチームによる公演、駅西大通りでは、約1,000人が参加した市民踊りなどが行われ、大変な盛り上がりを見せました。また、グルメゾーンには市内外の特産品が並んだほか、11台のキッチンカーも集結。夏の思い出づくりを応援しました。



## ▶ 北茨城市ノルディックウォーキング&ハイキング

10月上旬～11月中旬



北欧発祥の健康スポーツ「ノルディックウォーキング」を取り入れた観光地づくりを目的に、2012年に北茨城市が市観光協会、筑波銀行、JTB 関東との共催でスタートしました。漁業歴史資料館「よう・そろー」を起点に、海沿いや森のなかを歩きながら、北茨城の豊かな自然や文化・アートを満喫できる健康イベントとして、多くの参加者を集めています。

コロナ禍により2020年と2021年は中止に。再開した2022年の第9回からは、年齢を問わず参加できるノルディックウォーキングコース(全長約7.4km)とハイキングコース(全長約5.0km)の2コースを設定。第10回は2023年11月18日に開催され、終了後にコースで見聞きした風景や音、そのなかで感じた想いをしたためる俳句会を北茨城市役所で実施しました。